

## いけ花と私

### “Ikebana” and Myself

西垣 和子

NISHIGAKI Kazuko

---

**Abstract** : I have so far studied three styles (schools) of “Ikebana” or flower arrangement, and the one I am now practicing is called “San-getsu-korin-ka” (literally, the mountain-the moon-the light-ring-flowers) which was founded by Master Mokichi OKADA who also founded MOA Art Museum in Atami and Hakone Art Museum in Hakone. The spirit of the school is to let the nature live in the arrangement. The principles of the techniques are : 1. Be natural; 2. Be quick; 3. As if drawing a picture; 4. Be harmonious; 5. Be enjoyable. Through this “San-getsu” school of “Ikebana”, I have learnt : “Ikebana” has powers to move people, to heal people, is the mirror of myself, and what the nature is. As the founder Master OKADA said, the purpose of this school of “Ikebana” is “To make the earth the Paradise,” by purifying the human hearts and the societies through beautiful flower arrangements. With this spirit I have been arranging flowers every week at the Atami Post office as a volunteer as I did before at the Sendai JR Station in Miyagi Prefecture.

---

**Keywords** : いけ花、山月光輪花、岡田茂吉 Ikebana, flower arrangement, “San-getsu-korin-ka”, Mokichi OKADA

---

私は今日まで長い間、いけ花を通し何とか世の中のお役に立ちたいと願い、種々考えてまいりました。私にとっていけ花は生甲斐であり、救いであり、自己啓発の一助でありまして、花々に対し、心から感謝しているところでございます。

私はいけ花に携わって爾来、六十年になりました。人生で申しますと還暦を迎えております。不遜な事ながら、私は心の中で「花人」と称して、花を愛し、人を慈しむ心で花と向き合っております。「花人」とは、花と人と書きますが、この言葉は辞書にはございません。しかし花の様に純粋な心でありたい、そして自然体の人でありたい、そういう様に生きて行きたいとの思いで、目下修業の途上でございます。

最初に申し上げましたように、いけ花を通して世の為人の為になりたい、社会に少しでも裨益したいと願いつつ、続けておりますが、段々と心身に変化があり、昨今は、自分は花によって生かされていると実感しております。

本当にいけ花の力ってすごいと思っております。心や身体を浄め、考え方まで変えてくれる。

このいけ花の持つ力を、自分一人だけでなく世の中の人に伝えて、広めて行きたいと願っております。

この花の道は、他の茶道、書道、柔道等々、「道」の付くものと同様忍耐を要し、到達点の見えないものでございます。殊にお花は生命体であります故、この生きた花と向き合うには感謝の心が大切だと思っております。今迄歳月をかけ取り組んできた割には血肉になっていない事を恥じ入るばかりでございます。

私は幼少の頃よりお花を生ける事が好きでした。今日まで三つの流派を勉強して参りまして、四番目に出会ったのが「山月光輪花」というお花の道でございました。流祖は箱根美術館、MOA美術館を創設された岡田茂吉師でございます。

このお花は自然を重んじ、自然尊重の精神を基とし、今迄の華道とは全く意を異にしておりましたので、私は即、この道を全部受け入れて勉強させていただきました。

先ずいけ方の心構えとして、

- ① 自然にいける
- ② 早くいける
- ③ 絵を描くつもりでいける
- ④ 調和を考えていける
- ⑤ 楽しんで花をいける

この様に五項目から成りたち、更に一項目毎に詳細の取り組みがあります。

これら一つ一つ実践してみると容易な事ではありませんでした。取り組むうちに段々と意欲が湧いて参りました。このことを究めていく中で、不思議な力を頂き、教えられることが多々あり、改めて花の心を知り、生命体である花は人間と同じである、という事が理解出来ました。

- いけ花には人を動かす力がある
- いけ花には心身を癒す力がある
- いた花は自分との合わせ鏡である
- いけ花は自然の理を教えてくれる

等々、多くを学ばせて頂きました。

更に、花をいける事によって人生の目標や生き甲斐を見出す事が出来、そして美的感覚も成長し、美しいものが美しいと実感できる感性も育って来た様に思います。これこそ「美による救い」と申しましょうか。

この「山月光輪花」の根底にある主旨は、岡田茂吉師が提唱している「花による天国化運動」と言う事でありまして、この師の教えの主な部分を申し上げますと、

「我等の狙いは如何なる階級、如何なる場所と雖も花あり、誰の眼にも触れるようにする事である。事務所の隅に、書斎の机に、一輪の花が如何に一種清新の潤いを覚えしむるか、理想からいえば留置場、行刑場等に迄も一枝の花を飾りたいのである。そうすれば彼等犯罪者の心理に如何に好影響を与えるであろうかである。このように人間の居る処必ず花ありというような社会になれば、現在の混迷した様相を相当緩和する力になろう。」という事であります。

所謂、「花によって人心を浄め、それによって創り出される美しい社会の実現を目指す」という事で、これこそ「花による天国化運動」であり、この事を提唱し実践する、もの言わぬ花がものをいう、一輪の花の持つ力を引き出して表現し、人心を、社会を浄化していくという事、これが山月光輪花の原点でございます。

この事について私の体験を披歴させていただきます。

以前、東北の仙台に在住しておりました時の事です、仙台市は人口百万を超え、駅は人の出入りも多く、ご存知の様に東北の玄関口とも呼ばれております。私はここに花をいけて往来する人々の心を癒し和めたいと思い、駅長さんをお願いに上がりました。

駅長さんは終始、場所がないとか、もしも盗難とか花器破損とかの事故が起こると大変一等々とお断りになりました。しかし私は諦めずに一生懸命懇願いたしました。

「このいけ花は普通の花とは違うのです」、「このいけ花は『花による天国化運動』と申しまして、見る人の眼を楽しませ心地よくし、場を明るくし、そして駅全体が活気に満ちて事故もなく、感じの良い駅になるようにと願いを込めていけられる花なのです」と申し上げました処、駅長さんの顔がパッとあかるくなり、「『花による天国化運動』なんて今迄聞いたことがない、美しい響きのよい言葉ですね」と、大変感動され、即刻許可のサインを出して下さいました。

毎週交代でお花をいけて参りましたが、その後ずっと協力して下さいました。そして前代未聞の事乍ら、構内で華展を開催して下さい等、この状況は『河北新聞』にも取り上げられました。

不思議なことに、お花を入れるようになりまして以来、構内でのトラブル等々、全く無くなったと仰って下さいました。

もう一つの事例は一

現在、熱海郵便局に毎週ボランティアとしてお花をいけさせて頂いておりますが、この時も認可を頂くのに大変でしたが、結局、これは『花による天国化運動』の実践ですと、縷々お伝えいたしましたら、賛同して下さいました。

私は百人に一人でもよい、いけた花を見て下さり、気持ちよくなって頂ければ一、との思いで

おります。最近は老若男女を問わず、

- ご苦労様です
- 頑張ってください
- 心がスッとします
- 花の名前を覚える事が出来て嬉しく思っています
- 季節の推移がわかり楽しみにしています

等と、声をかけられます。この様に来局の方々の優しい声、労いの声、感謝の声が私の心を育て心身に元気を与えてくれております。真心を込めて、効を急がず継続していく内に、思いが徐々に浸透すると言う事を体現し、ありがたい限りでございます。

私の好きな言葉で、「愚公山を移す」という中国の故事がございます。これは、通行に不便な山を他に移そうとして、箕みという農具でコツコツと土を運び始めたので、時の天帝が大変感心して、この山を他に移したというお話です。あきらめないで弛まぬ努力を続けていく内に、いつかは不可能と思える事も成し遂げることが出来るという譬え話でございます。

私はお花屋さんの花も勿論いけますが、大方は野山から取ってきて、自然の力、風情が見る人の心に伝わるよう一、そして見る人にエネルギーが与えられるよう一に、心をこめて生けております。

少々余談になりますが、野山に参りますと、木の花や草の花が「私をいけて、私をいけて」と、言っているような気がして近くに行きますと、ピカッと光るような花に出会うことがあり、又、季節が私を呼んでくれますので、いそいそと出かけております。

これら花々の使命、役割の終わった時は、必ず“ありがとう”と言葉をかけ、心を込めて花供養をさせて頂いております。

流祖はお花に関して数々の和歌をお詠みになられました。そのお歌を数種ご披露したいと存じます。

- 美はしき花に憧る人こそは花にも似たる心持つなれ
- 大自然の美しさこそ主すの神の尊き無言の教えなりけり
- 春の花秋の紅葉を愛ずるこそ神の恵みに応うるなりけり
- 途みちの辺に咲く花にさえ運命さだめあり床に活けらるものもありせば
- 野に山に色とりどりに咲く花は神の恵もう宝にぞある
- 天国は美の世界なり住む人の心も共に美しかるなり